

4. 経営学部

【到達目標】

本学部では、本学の教育理念と学部の教育目的を十分に理解し、国際社会において指導的市民として、各方面で活躍する強固な意志を有する者を受け入れることを基本とする。

学生の受け入れについて、具体的には次の4点を目標として定め、その効率的な達成をはかることとする。

第一には、大学で学修する上で必要な基礎学力を有しているか否かについて、各種の入試方法によって確認する。学力型入試における良質の入試問題の作成に努めるとともに、各種推薦入試における筆記試験及び口述試験の厳正な実施に努める。

第二には、学業成績に表れない各種活動内容を正しく評価し、優れた実績を達成した者に入学の機会を与える。そのために技能・資格取得、社会・文化活動、スポーツ活動などの実績を重視する入試制度の充実に努める。

第三には、多彩なバックグラウンドをもつ個性ある学生を受け入れ、国際社会でもの怖じることのない学識と人格の養成を行う。そのために、A0入試の拡充と選考方法の一層の充実に努める。

第四には、外国人留学生の受け入れを積極的に行うことによって、学生相互の国際交流を一層促進する。そのために、外国人留学生のための特別入学試験の内容を充実し、また、日本語教育の充実など受け入れ体制の整備に努める。

【現状説明】

本学部では、大学で学修する上で必要とされる十分な基礎学力を有し、かつ、入学後においても強い学修意欲を堅持すると期待される個性的な学生を受け入れることとしている。そのために多種類の入試方法を開発・導入し、受験生の学力と意欲と個性を総合的に評価して入学を決定するアドミッション・ポリシーを確立している。

本学部の入学定員は、2006年度より入学定員が530名となり、この3年間はほぼ定員どおりの入学者が確保されている。ちなみに、直近2008年度の定員超過率は1.034倍（548名の入学）となっている。本学部学科への志願者は全体的には漸減傾向で推移しているが、この数年に関しては大幅な減少はみられない。入試広報活動や高等学校訪問などの大学・学部の努力が奏功していると評価できる。しかしながら、依然として、立地するキャンパスの地理的不利性を抱えながら、本学部を取り巻く入試環境は厳しい状況で推移するものとみられる。

2008年度の本学部の入試の形態は、学力型・非学力型合わせて実に8種類が採用されている。全学共通の入試形態と学部固有の入試形態とに大別すれば、A0入試と公募制推薦入試（出願部門別）入試が非学力型で学部固有の入試形態をなすものである。（大学基準協会基礎データ 表13参照）

A0入試は全学に先がけて2007年度から導入し、受験生やその関係者の高い関心を集めている。2007年度の志願者は60名（合格者40名）であったのに対して、2008年度の志願者は96名に増加（合格者53名）した。この2年間のオープンキャンパスでも多くの関係者が参加し、本学部A0入試について熱心に情報収集を行っている状況である。

経営学部のA0入試は、非学力型に区分されるにしても、その選考は、エントリーシート、課題レポート（4,000字）、筆記試験（小論文）、プレゼンテーション及び面接の総合評価によって厳格に実施している。書類選考のみや形式的な面接によって安易に入学者を決定するA0入試とは、その内容を異にするものである。

次に、公募制推薦入試は、本学部の場合、上記のアドミッション・ポリシー、すなわち「基礎学力と学修意欲と人格形成（個性）の総合的評価」による受け入れを最もよく表す

方式を採用している。入学前に取組んだ学業成績に表れない各種の活動内容を、社会・文化活動部門、技能・資格取得部門、及びスポーツ活動部門の3つに区分して、そのいずれかの部門で優れた実績を達成した者に入学を許可することとしている。しかも、筆記試験（小論文）と面接によって、基礎学力と意欲、さらには個性の評価を行っているのが特徴である。2008年度入試での公募制推薦入試の志願者は149名（前年度比20.7%増）で、合格者は121名（入学予定定員92名）となっている。

本学部の入学試験（前期）B方式（得意科目型）の試験科目のうち「商業／簿記・会計・会計実務」を、2009年度入試から除外することとした。この科目は本学部の会計分野教育に直結するもので、本学部入試の特徴の1つともなっていたが、1997年度入試の導入以来、この数年志願者が減少していることと、公募制推薦入試等でこの分野の能力評価が可能と判断されたためである。

ところで、本学では全学部で、AO入学試験や各種推薦入学試験合格者に対して年度末の3ヶ月前より入学前教育を実施しているが、本学部では学外専門教育機関との協力のもと、「英語」と「文章表現法」の科目について入学前教育を導入している。「英語」については2008年度よりe-Learningによる教育を導入した。これは、推薦系入試合格者が、高校教育を終了して4月入学以降、大学で学修するための基礎学力を確かなものにするための自主的な準備教育となる。「文章表現法」については、入学後の1年次前期「FYS（基礎演習Ⅰ）」の中で、最後の課題レポート（添削済み）を返却・指導している。

退学者の状況と退学理由の把握状況については、本節末の表を参照のこと。

編入学および転部・転科については、毎年度若干名の志願があり、試験および面接により入学者を選考している。編入学および転部・転科ともに、この数年3～5名の入学者があるが、本学部学科のカリキュラム内容を踏まえて、卒業までの十分な履修計画が設定できるような指導を行っている。そのために、3年次編入志願者に対しては、既修得科目を調査して、場合によっては2年次からの編入に誘導することも行っている。

【点検・評価】

本学部では、学部創設以来、意欲的で個性ある学生を、多種類の入試方法で評価して受け入れるとするポリシーは確固としたものである。しかしながら受験人口の総数減少と経営学部志願者数の漸減傾向を背景として、入試制度それ自体や実施上の課題について検討を加えなければならない点が見つかっている。入試制度では、2009年度入試より40名に変更したAO入試の受け入れ人数の適正水準を、志願者の増大傾向のもとでどう定めるかは、受け入れ後の教育対応との関係で重要である。また、指定校推薦による志願者が大学間及び学部間競争のもとで、志願者減少の見通し並びに選定基準の緩和圧力の中で、どのように設計修正するかの課題が認められる。

一方、入試実施上の問題としては、まず、AO入試及び公募制推薦（出願部門別）入試における選考方法のあり方が指摘される。すなわち選考に当たっては、課題レポートや小論文に加えて、複数の教員による面接を採用しているが、果たしてそれで十分に学部適合する学生を選考できているかどうかという点である。面接・選考の委員と時間の制約の中、このような非学力型に面接を組み込んだ入試選考の方法をより改善することが求められる。

さらに、学業成績以外の各種活動実績を正当に評価し、他に比して優れた者を合格とする公募制推薦入試で入学した学生に対する、入学後の教育的対応のあり方が問われている。経営学部で個性ある学生の受け入れと成長支援を入試・教育方針としているとしても、入学後の教育は基本的に学力型入試で入学する学生と一緒に授業やゼミで学修することになる。従来、非学力入試の入学生は、比較的学力が劣るため学部の授業について行けないと

いう報告が多く見られたが、2008年度の経営学部の実態調査（下表）では、必ずしも入試種別での学修成果（単位取得科目の平均点）に大きな格差がみられないということが明らかとなっている。しかしながら、個々の学生の学修面では、さらに詳細な個別実態調査に基づくきめの細かい教育が必要とされる。

他方、本学部は、単一学科の国際経営学科が示すとおり、国際教育の充実に学部教育の目標をおいて取り組んでいるが、この数年間は外国人留学生の入学者数が減少傾向にあり、2006年度以降は一桁台に落ち込んでいる。学部間や学部内での学生相互の国際交流の促進という目標に照らして、状況の改善が大きな課題であるといわなければならない。

入試種別 取得単位数・平均点 － 3年生－

入試種別	平均取得単位数	平均点	人数	2006年度入学者数
給費生試験	80.0	80.1	30	33
入学試験(前期)	77.1	78.3	134	148
入学試験(後期)	76.1	77.8	20	17
大学入試センター試験利用(前期)	77.6	78.3	65	77
大学入試センター試験利用(後期)	77.6	76.5	5	7
指定校制推薦入学試験	80.3	79.5	116	127
公募制推薦(スポーツ・音楽)入学試験	78.6	78.5	32	38
公募制推薦(出願部門別)入学試験	79.0	79.3	36	41
公募制推薦(課題レポート)入学試験	72.6	74.5	28	36
全体の平均/人数	77.7	78.1	466	524

入試種別 取得単位数・平均点 － 2年生－

入試種別	平均取得単位数	平均点	人数	2007年度入学者数
AO入学試験	38.3	78.1	38	40
給費生試験	37.8	79.0	29	27
入学試験(前期)	35.1	77.4	208	197
入学試験(後期)	35.0	77.3	17	15
大学入試センター試験利用(前期)	36.4	76.8	44	39
大学入試センター試験利用(後期)	27.5	74.4	2	2
指定校制推薦入学試験	40.3	80.4	130	121
公募制推薦(スポーツ・音楽)入学試験	38.1	78.3	41	37
公募制推薦(出願部門別)入学試験	36.6	79.1	53	47
公募制推薦(課題レポート)入学試験	34.5	71.9	10	0
全体の平均/人数	36.0	77.3	572	525

備考 1. 平均取得単位には認定単位を含む。

2. 平均点は100点満点で評価された科目の集計である。

3. 資格教育課程の科目は集計から除外。(教科に関する科目は算入されている。)

【改善方策】

本学部における学生の受け入れについては、現状の問題点と今後の課題を点検した上で、具体的には次のような方策で改善することとする。

第一に、A0入試の受け入れ人数については、その他の各種推薦入試との関係や、入学後の教育対応のあり方を勘案しながら、入学定員の10%（53名）を上限として適正な水準を定めることとする。但し、具体的には2009年度～2010年度の入試動向を慎重に分析した上で判断することとする。

第二に、A0入試及びその他各種推薦入試の面接方法並びに選考方法について、2009年度入試の終了時点で問題点や課題を再点検し、改善のための方策を明確にして2010年度入試より導入することとする。

第三に、入試種別の受け入れ学生について引き続き単位取得状況の調査を行うと同時に、1年次前期の「FYS（基礎演習Ⅰ）」や上位年次の「演習」などの科目を通じて、個々に学修状況のチェックを行う学部内の組織体制を2009年度中に構築する。

第四に、外国人留学生の受け入れについては、2008年度入試での増加反転を機に、日本語学校などでの募集説明会を積極的に行うこととする。その際、本学部での入学後の日本語教育の充実や大学院進学に当たっての特別試験免除制度などの特徴を十分に説明する必要があり、そのためのパンフレットを作成して対応することとする。